

2022（令和4）年度 事業報告

社会福祉法人 ふくちやま福祉会

《1》はじめに

—政治情勢—

ロシアのウクライナ侵攻から1年3ヶ月余り。戦闘の長期化は避けられず、平和への道程が全く見通せない状況です。そのような中で開催された5月のG7サミットでは、侵略を抑止して戦争と威圧を防止するための「核抑止力」を肯定した宣言を被爆地広島から発信したことに對し、強い批判の声が上がっています。

日本においては、岸田政権が昨年閣議決定した安保3文書に基づき、「敵基地攻撃能力」を保有するために、今後5年間で43兆円の軍拡財源を確保するための「防衛力強化資金」法案が与党などの賛成で強行されました。防衛費を国内総生産（GDP）比で2%に倍増となれば、防衛費は世界第3位となります。

軍拡財源を確保するために、国立病院機構など病院のための積立金を国庫へ返納させる、東日本大震災の復興のための復興特別所得税を財源に回すなどの流用、また、歳出改革によって3兆円を生み出すと言っているものの来年度以降の財源見通しは立ってはいません。この法案とあわせて、軍需産業支援法案（国が採算のとれない軍事企業の製造施設を買い取り、設備投資や維持管理の経費を負担せずに経営することを可能とする）も成立しており、専守防衛から戦争ができる形へと着々と進めてきています。

経済界の幹部も委員を務める財務大臣の諮問機関である財政制度等審議会は、政府が6月に策定する経済財政運営の指針「骨太の方針」に向けた建議を公表し、①医療や介護など社会保障分野の歳出改革を断行することを明記し、子育て支援の財源の必要性を口実に社会保障の改悪（削減による財源捻出）の姿勢を示し、また、②「税も選択肢から排除すべきでない」と消費税増税にも執着し、③コロナ対策の巨額補助金が医療機関の財務にプラスに働いたことを踏まえ、診療・介護報酬の引き上げは慎重に議論すべきなどを内容とした提言を取りまとめました。2024年度の障害福祉の報酬改定にも大きな影響を与えるものとなっています。

《2》法人理念

障害の種別を超えて どんなに障害が重くても ともに活動できる場をめざしてきました。 障害があっても 安心して働き、暮らし続けられる 地域社会を創りあげるために ふくちやま福祉会は 障害のある方を真ん中において地域の皆さんとともに取り組んでいきます。
--

『法人理念』に基づき、障害のある仲間の諸権利と豊かな生活を保障するために、また、福祉の発展を願う人々や団体とともに取り組みを進め、福祉の向上を目指します。

—大切な視点—

「仲間一人ひとりの命や健康、尊厳を守り、個々が持つ願い、要求を重んじ、仲間本位の実践を行う」
（職員本位、価値観のおしつけ、できない理由探しに陥らないように）
「権利擁護の姿勢、支援技術の高い職員を育成、共育し、法人の各事業所のサービスの向上を図る」
「主体的に、計画的に、協調性を大切にして仲間、職員、関係者の参加型での実践、経営を行う」
「地域にとけ込み、福祉の充実・発展に寄与する」を基本に据え、きょうされん、後援会、親の会、地域の福祉の向上に取り組む諸団体等の取り組みに積極的に参加し、皆で学び、思いを共感・共有し、地域を変えていく」

《3》 事業報告（法人全体の重点事項）

- 感染防止を徹底しつつ、平時に近い形でやりがい、楽しみのある実践を行います。
- 仲間の願い、要求を中心に据えて、関係者の参画を得て、将来を見据えた法人第4次3ヶ年計画（2022～2025. 3）の策定に取り組み、その計画をみんなで力を合わせて実行していきます。

5つの視点	第4次3ヶ年計画で掲げたこと ※22年度事業計画に掲げたこと（●）	取り組んだこと（成果）と積み残し課題
仲間の視点	<p>①仲間の高齢化・重度化に伴うハード・ソフト面の整備。（●）</p> <p>②それぞれの仲間にあった仕事づくりと魅力ある商品の開発。</p> <p>③新たなグループホームや短期入所の開設と高齢の仲間の暮らしを考えていく。</p> <p>④乳幼児期、児童生徒への支援の充実</p> <p>⑤奥野部エリアに日中一時支援事業を。</p> <p>⑥仲間の自治活動の充実。</p>	<p>①ライフステージ委員会において、中丹西リハビリテーションセンターとの繋がりを持ち始め、理学療法士を招いての学習と来訪にての支援における環境面の助言を受け、仲間への支援内容に還元し始めたところです。</p> <p>②しごとPTの開催は1回に留まり、カタログ作成の途中段階となっています。新しい内職や新商品販売（燻製）を取り入れました。</p> <p>③建て貸し方式にむけて、業者からオーナー候補者探しと設計図面のたたき台を作成してもらったところです。（法人内での協議は23年度で進めていきます。）</p> <p>④三段池エリアにて実施中です。</p> <p>⑤必要となる職員体制を整えることができなかったため、事業開始には至りませんでした。</p> <p>⑥22年10月におたのしみ交流会（まつり代替企画）を実施しました。→普段見ることのない姿も見られ、仲間がもつ力を改めて実感し、今後も仲間の持つ力を活かした取り組みを継続させていきたいと思いました。</p>
サービスの質の向上の視点	<p>①仲間の希望・歩んできた生活歴・障害特性等を理解、共有した上で支援する仕組みづくり（●）</p> <p>②仲間の声をより事業に反映させる仕組みづくり。</p> <p>③日中～ホーム間で事例検討、職員の交換実習等を行い、迅速に対応できる体制づくり。（●）</p>	<p>①支援センターから各事業所へ必要な情報提供を行うとともに、最新の状況については各事業所間において情報共有を図ったところです。奥野部エリアの事業所より個別支援計画ほかの書式の統一様式を使用し始めました。業務の標準化までには至っていません。</p> <p>②各事業所におけるミーティング、自治会の取り組みなどの際に意見聴取などを行いました。親の会向けには23年3月に懇談会を開催しました。</p> <p>③いくつかの仲間のケースについては、支援センターからの呼びかけでサービス担当者会議を設定し、状況の共有と、対応策を確認し、対応しています。交換実習は、コロナ対応もあり日中</p>

	<p>④自主点検と第三者評価の受診</p> <p>⑤実践の悩みへの助言や仲間の生活のしづらさの改善につながる環境整備。 (●)</p> <p>⑥ホームや放課後等の余暇活動の充実。</p>	<p>の職員が結果としてホームの応援に入ることありました。</p> <p>④第三者評価の受診の対応はできませんでした。</p> <p>⑤いくつかの団体、企業へ業務内容について照会を行いました。費用と内容面もあり、契約締結までには至りませんでした。</p> <p>⑥ホームにおいては、限られた人員体制の中、各ホームにより個々にあった余暇支援を行いました。ポップコーンにおいては、ヘルパーの人員不足やコロナ対応もあり、現在のサービスの維持、継続に留まりました。</p>
<p>経営管理の視点</p>	<p>①法人理念を改定する。</p> <p>②ホームページや広報誌による広報強化。</p> <p>③修繕計画の策定と実施。 (●)</p> <p>④権利擁護・虐待防止委員会、感染症対策委員会、事業継続計画策定委員会を設置し、これらに関する研修、訓練の実施。(●)</p> <p>⑤収入増の取り組み、支出面におけるコスト意識がもてるよう必要な情報提</p>	<p>①たたき台は作成しましたが、管理者間での理念の捉え方の温度差が見られたので、その点の擦り合わせをしっかりと行うことが必要と判断し、理事会までの提案には至りませんでした。</p> <p>②ひめがみは4回発行し、法人の状況を発信しました。 ホームページは、大卒の改定は完了しましたが、写真など細部の変更等は作業が途中までとなっています。また、タイムリーな情報発信ができる枠組みの整備までには至っていません。</p> <p>③22年度は、第2ふくちやま作業所のLED化工事を実施しました。ふくちやま作業所内の改修工事は、予算化はしていましたが日程調整が合わず、実施には至りませんでした。 22年度で500万円の修繕積立を行いました。 23年度はたんぼぼの家・ふきのとう作業所のエアコン改修工事、第2ふくちやま作業所へのぐるっぼ広小路の機能の移転のための改修工事、続いてたんぼぼの家の建物を重度化、高齢化へ対応するための改修、その他の事業所の修繕箇所のリストアップし、資金面を合わせた修繕計画を策定します。</p> <p>④権利擁護・虐待防止委員会と事業継続計画策定委員会については設置をして活動中です。感染症対策委員会については、感染症及び食中毒の予防及びまん延の防止のための指針とコロナ対応の内容について実施しましたが、委員会としては立ち上げられてはいません。23年度で経過措置は終了するため、委員会を立ち上げます。</p> <p>⑤研修参加により、サービスの質の向上とあわせて強度行動障害支援者養成研修を多くの職員に受講してもらい、23年度より重度障害者支援</p>

	<p>供。 (●)</p>	<p>加算が取得できるよう準備をしました。物価高騰対策として、8月に福知山市へ要望書を提出しました。京都府と福知山市により補助策が実施され、収入増となりました。</p> <p>職員向けには、予算について資料配布と説明を行い、節電等の協力をお願いしました。</p>
職員の視点	<p>①めざす職員像、職員の行動指針を策定と法人の歴史を継承していく学ぶ機会づくり。</p> <p>②キャリアパスを構築し、研修参加や法人内取り組みによる資質向上 (●)</p> <p>③職員間での協調性やチームワーク向上</p> <p>④新規学卒者、また、有資格による5年以上の実務経験のある専門職の採用。</p> <p>⑤業務負担の軽減や日中～ホーム間の情報共有を進めるためのICTの活用検討。(●)</p>	<p>①権利擁護・虐待防止委員会において、職員の行動指針と目指す職員像について議論を深めましたが、完成には至りませんでした。</p> <p>6福祉会や府社協研修において、京都北部の歴史を学ぶ機会を提供できました。</p> <p>②きょうと福祉人材認証制度の再宣言～認証に向けてキャリアパスのたたき台等を作成しました。23年度において、支援プログラムを活用して完成させます。「学び」を大切にして、強度行動障害支援者養成研修をはじめ多くの研修に参加してもらいました。</p> <p>法人の資格取得支援制度を活用し、介護福祉士国家試験合格者も複数名ありました。</p> <p>③事業所の職員集団の規模、経験年数の割合などにより差異がみられるところがあります。</p> <p>職員の補充ができていない事業所においては、負荷が掛かっているところもあり、人材確保が最重要課題となっています。</p> <p>④経験年数5年以上の有資格者が複数名入職に結び付きました。(常勤臨時、非常勤臨時)</p> <p>⑤ICT活用している法人の報告会に参加しました。「実践の継承」「理念の実現」の目的をきちんと持った上で導入する必要があることを理解したところです。</p> <p>現状では、実践現場でグループライン(個人情報には気をつけた上で)管理部門でドロップボックスの活用で対応中です。</p>
地域の視点	<p>①きょうされん、後援会の活動の意義や役割を理解し、関係者一緒になって取り組む。地域の関係団体の連携を大切に。(●)</p> <p>②地域に役立ち、還元する取り組みを実施する。災害時の拠点となれるよ</p>	<p>①きょうされんの活動では、全国大会へ8名が参加しました。国会請願署名運動は、前年度より多く集めることができました。ただ、新しい方に、運動に参加しやすい方法を提案する点は課題としてあります。</p> <p>後援会の活動では、物資販売、支援回収、ミニバザー、会員拡大の取り組みに参加しました。現在、一定額の積立をして頂いているところです。</p> <p>②コロナ感染拡大防止のため、まつりなどイベントは開催できず。外部イベントへ少しずつ参加しました。</p>

	<p>う必要な備品を準備する。(●)</p> <p>③サポーター(応援団)の組織化を進める。</p> <p>④就学前後の子どもに関する教育、行政機関等との連携をより深める。</p> <p>⑤仲間の願い実現のため行政に対する要望活動に取り組む。</p> <p>⑥職員一人一人も、地域の中でつながりを作り地域に貢献する。</p>	<p>奥野部エリアに災害用備品を購入し、備蓄品を少しずつ増やしているところです。</p> <p>③後援会の方では、後援会員の更新拡大の動きを努力されていますが、法人独自では具体的な取り組みはできませんでした。 23年度はボランティアやインターンの受け入れ再開の準備をしていきます。</p> <p>④三段池エリアにおいて取り組みを実施中です。市全体として子どもの利用希望が増えているという課題について、教育、行政機関等と意見交換を深めていきます。</p> <p>⑤8月に福知山市へ要望書を提出しました。京都府と福知山市により補助策が実施され、収入増となりました。(結果として今年度については、給食費の負担増を行わなくてもいい状況を作ることができました。)</p> <p>⑥各事業所において、必要な会議や実務は行いつつ、残業時間の短縮には務めているところです。個々への具体的な働きかけは実施してはいません。</p>
--	--	---

《4》各事業所の報告(重点項目)

事業所	各事業所の2022年度の重点項目	どうだったか
<p>ふくちやま作業所(ぐるっぼ広小路)</p>	<p>仲間が高齢・重度化していく中、事業所全体で見たとき、作業収入による仲間の給料保障ができていない現状があります。今後1年かけて個々に合う仕事づくり、作業内容、給与面等を考えていきます。</p> <p>高齢・重度化への具体的なとりくみ(班を超えて事業所全体での)や個々の仲間に合ったコミュニケーションを取るために、支援ツールを用いたり、環境設定の工夫などを検討し、具体化していきます。ぐるっぼ広小路においては、店舗部分の充実(コロナ渦でも影響を受けないテイクアウトを中心とした店舗営業、限られた職員数の中で工夫をし、客数の増加、仲間の仕事として定着させる)を図ります。</p> <p>事業所とホームとの間で、ホーム入居者に関する懇談、情報や課題の共有など課題解決にむけて取り組みを進めます。</p>	<p>作業収入が少ない班は、日課を見直し作業を増やすなどして収入増を図り、重度の仲間の作業環境を整えて作業参加に繋げました。仕事づくり、給与面についての検討はコロナの影響もあり検討不十分で継続中です。</p> <p>イラストや写真を使った掲示や文字盤、タイムタイマーなど個々に合わせた支援ツールを活用した。リハビリ訪問指導を受け、指導内容を日課に取り入れ実践中です。</p> <p>店舗部分の充実については少ない職員数で、2階の作業もある中で実現に至りませんでした。イベントの参加を含め、開店準備や接客に仲間が関われる機会を増やすようにしました。</p> <p>体調面など早い対応が求められることは、班責や管理者間で情報を素早く共有し対応を検討しま</p>

		した。
たんぽぽの家	<p>仲間の高齢化、重度化など仲間の通院援助の充実を図ると共に、ホームの仲間の体調が悪くなった時の対応をどのようにしていくかホームと共に検討を進めます。</p> <p>機能訓練など医療機関との連携を図ります。</p> <p>空間の確保など環境整備を図ります。</p>	<p>親御さんが通院できない場合は家族・ホーム職員と連携をとり通院援助を行いました。</p> <p>ホームの仲間の体調が悪い時のホームとの検討はできていません。</p> <p>空間の確保は少しずつ整備ができていますが完全な整備はできていない状況です。</p>
福知山共同作業所 (共同作業所)	<p>高齢期を迎えた仲間の支援（筋力維持や認知機能維持、また低下してきている状況に合わせた対応など）の充実を図っていきます。</p> <p>また、個々に合った作業量とそれに見合った工賃支給と安定した収益を得られる作業の確保、よりよい仲間の自治活動を進めます。</p> <p>法人内においての「福知山共同作業所」の事業所としての役割の明確化</p>	<p>昨年12月に長く一緒に過ごしてきた仲間の方が亡くなりました。</p> <p>生活介護に移行し、体重血圧などの定期的なチェックが可能となりました。筋力維持等の支援としては毎日のラジオ体操と散歩に取り組み、また、リハビリテーション支援センターの訪問も受けられるようになりました。</p> <p>工賃については手当を支給することで個別化を図っています。</p>
(ふきのとう作業所)	<p>仲間の願いや思いに寄り添い、仲間のしごと（給料）を確保しながら、新たなしごとづくりを切り開いていきます。</p> <p>その上で働く仲間の意欲や、やりがいをつくっていきます。あわせて、高齢化していく仲間、重度化していく仲間1人1人の実態に合わせた作業や支援に取り組んでいきます。</p>	<p>パンの販売、下請け作業を中心に仲間を確保してきましたが、コロナ禍の中でパンの販売ができない状況もありました。</p> <p>そんな中、収入増を図るために、そばや燻製のナッツを仕入れて販売するなど新たな取り組みも始めました。ただ、以前のような収益を上げることはできていません。また、仲間が安定して通所ができるように寄り添いながら支援を引き続きしていきます</p>
法人事務センター	<p>事務機能の合理化をすすめます。</p> <p>(昨年度導入の勤怠打刻システムに伴う実務処理の円滑化等)</p> <p>研修の充実を図ります。</p>	<p>勤怠打刻システムの導入から1年がたち、賃金計算に係る実務量は大きく軽減することができました。</p> <p>しかしながら、まだ課題となっている部分があるので引き続き課題の整理と解決に向けた検討が必要です。</p> <p>研修においてはきょうされん主催の事務に特化した連続学習会が開催され、参加ができました。</p> <p>引き続き、様々な分野の研修に参</p>

		加していく予定です。
第2ふくちやま作業所 (リサイクル)	<p>コロナ禍でも安全を確保して作業や生活を過ごすことができるよう、また、コロナ禍においても創意工夫をして販路を確保し収入を下げない努力をしていきます。</p> <p>高齢をむかえてきている仲間への対応について検討します。</p> <p>日中、生活における支援の充実（関係者との連携）を図ります。</p>	<p>コロナで自粛していた販売会ですが、少しずつ出店の動きをつくり、収益増につなげました。</p> <p>7月に作業班の仲間が、高齢化に伴い、ゆったりと作業をされる共同作業所へ異動されました。</p> <p>また、リサイクル班へ新たなステップとして、作業班から仲間1名が完全異動となりました。</p>
あまづキッチン(森カフェ)	<p>さらに多くのお客様とつながり、満足していただく、食事や製品づくりをしていきます。パン製造の安定化ができるよう</p> <p>その中で仲間たちがやりがいを感じて一緒に働けることを目指して頑張ります。</p>	<p>コロナ感染防止には気を緩めることなく続けてきました。物価高騰の中、今までの価格では、工賃保障が厳しくなり、パンや食事の価格を上げて対応してきました。</p> <p>パン製造も仲間の力をかり安定してきました。美味しいパンの製造を目指します。</p> <p>コロナ禍でも、レストランの来客者は通算98,000人を超えました。</p> <p>仲間、職員がやりがいを感じて一緒に働けることを目指します。</p>
ホームあつなか (ホームあつなか、あつなかSS、グループホームひだまり)	<p>高齢化や入居者の健康に合わせた支援が重要になってきています。サービスやスタッフの質は入居者の生活の質に直結する重要なポイントとなるため、研修や会議の充実、介護の資格を持った職員も増やしていきます。</p>	<p>高齢の利用者1名がご逝去。身体機能低下のため他法人の入所施設に1名が入所されました。</p> <p>職員間の情報の共有、会議で課題を検討することを大切にしてきました。</p> <p>必要な研修にも参加し、今後の実践に生かしていきます。</p>
ホームいさ (ホームいさ、いさSS、ホームまえた)	<p>自然災害やコロナ禍における安全の配慮や健康の維持を最優先にし、安心した生活・利用ができるように努めます。</p> <p>職員間の情報共有や支援内容の検討を頻回に行い、入居者・利用者の願いに寄り添った、よりよい支援を目指します。</p>	<p>新型コロナについて、陽性者が出るケースがありましたが、決められた対応にのっとり感染拡大を防ぐことができました。</p> <p>2023年の年始前後から身体的変化がみられる入居者がおられましたが、ご家族のご尽力で現在は元気にもとの生活を送られるようになっていきます。</p> <p>グループLINE等での迅速な情報共有を行ったり、月1回の職員会議の場においては法人内他事業所の様子や支援についての学習の時間も設けたりして、論議し</p>

		やすい雰囲気づくりを大切にしてきました。
ホームにしなかの (ホームにしなかの、にしSS)	引き続き、利用日数が増えるよう、入居者家族への促しを行います。 にしなかのショートは、昨年秋より長期間継続利用の方を対応中です。その方がグループホームに入れるよう援助します。 土、日の余暇活動を利用者と相談して取り組みます。	昨秋より、週末も続けて利用される入居者が1名増えました。 にしなかのショートでは、緊急受入(DVからの保護、介護疲れ)を中心に受け入れました。 入居者1名は月1回ヘルパーを利用され、市街地でイベントがあり、体制が取れば参加しました。
ポップコーン ガイドヘルプふくちやま コーンクラブ昭和町	ヘルパーの確保が最優先事項になっています。 サービスの質の向上のため、定期的なモニタリングを実施し、利用者のニーズに即したサービス提供が常に行えるようにします。 サービスの質の向上のため、ヘルパーを対象とした研修計画の作成、実施し、ヘルパーの資質向上に努めます。	ヘルパー確保はできていません。 行動援護1名、居宅介護2名の新規利用者がありました。 行動援護1名については、継続利用とはなりませんでした。 介護職員初任者研修1名、強度行動障害支援者養成研修2名受講修了しました。 オンライン研修、施設訪問、外部研修に参加しました。
きらきら すまいる コーンクラブ三段池	グループのメンバーが変わっていくので、メンバーに合った療育活動の提供、内容の充実を図っていきます。 また、報連相を意識し、連携ミスがないようにし、ヒヤリハットが上がればすぐに対応を見直していくことを心がけていきます。 保護者との連携をこれからも大切にしていくことや、関係機関との連携を強化していきます。また、長年の課題である、きらきら・すまいるのパンフレット作製をしていきます。	グループのメンバーが変わっていくので新年度会議や月の月案会議で療育の内容を相談し進めていきました。 報連相は、行き届いていない事もあり、連携ミス等は見られたこともありました。 保護者・関係機関との連携については、コロナ禍もあり難しい面もありましたが、電話や日程調整をし、連携を強化できた関係機関もありました。 課題のパンフレット作製はできませんでした。
支援センターふきのとう	相談～サービス利用～モニタリングなどの一連の支援の流れの標準化が構築の途上です。作業分担や支援の整理とあわせて引き続き取り組みます。 法人事業所内での事例検討への参画します。 相談支援専門員ができる人材を育成、確保していきます。	複数の課題があるケースが増えており、モニタリングのところまではできていない状況です。 法人内ではホーム入居者に関するケースを中心にサービス担当会議を開いて、状況確認と役割分担などを行いました。 昨夏に正規職員の退職があり、補充ができないままとなりました。

<p>地域活動支援センター OneStep</p>	<p>利用目的、希望する生活の目標に向けて、個々の利用者への聴き取りを実施します。</p> <p>コロナ禍にあわせて毎月の取り組みを充実させていきます。</p> <p>集団での活動があまり得意ではない方の利用が多いため、個別に合わせてつ、集団に交じれるよう支援します。</p>	<p>利用延べ数は847名（前年度比227名減となっています） 実人数では新規に4名増、9名減となりました。</p> <p>コロナの長期化で、外出しない生活に慣れてしまった、魅力ある取り組みが提供できていないことが要因かと思われます。</p> <p>徐々にコロナ前の内容に戻すとともに、新しい活動も次年度は取り組みます。</p>
-------------------------------	--	--